



## ささえ合おう



## ～病気の子どもと家族を助け合う輪～

小児がんは医学の進歩にともなって、「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、小児がんの患者とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実状です。がんの子供を守る会は患者とその家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく患者とその家族が中心となり、医療関係をはじめとする多くの方々の支援のもとに活動しています。

北海道のすべてのこどもたちが生きがいをもった生活を送るために私たちになにができるだろう

ぜひこの機会に、みなさんと支援のあり方を一緒に考えてみませんか。

**とき：平成 28 年 11 月 13 日（日）午前 10：30～（受付開始 10：00～）**

事前申し込み不要/参加費無料

**場所：北海道難病センター（札幌市中央区南 4 条西 10 丁目 3 階会議室）**

### 北海道で活動している団体からのお話し



#### ■ 佐々木健一郎（公益財団法人そらぶちキッズキャンプ 事務局長）

日本国内に約 20 万人いるといわれている小児がんや心臓病などの難病とたたかう子どもたち。

「そらぶちキッズキャンプ」は医療施設を完備し、特別に配慮されたキャンプ施設や自然体験プログラムを設けた、子どもたちの夢のキャンプを創っています。

#### ■ 下田美雪（メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン札幌支部/事務局/コーディネーター）

「メイク・ア・ウィッシュ」とは英語で「ねがいごとをする」という意味のボランティア団体です。3 歳から 18 歳未満の難病と闘っている子どもたちの夢をかなえ、生きるちからや病気と闘う勇気を持ってもらいたいと願って設立されました。メイク・ア・ウィッシュは独立した非営利のボランティア団体で、宗教的、政治的団体ではありません。

#### ■ 佐藤貴虎（北海道子どもホスピスをつくる会 代表）

英国発祥で、小児がんや難病、障害がある子どもとその家族に、病院と自宅以外の 居場所を提供する施設「子どもホスピス」。札幌にも造ろうと、研究者や医師らが昨年 7 月に「北海道に子どもホスピスをつくる会」を発足させた。

#### ■ 中野恵一（公益財団法人がんの子どもを守る会北海道支部 幹事）

当会は 1968 年に小児がんで子どもを亡くした親たちによって設立され、小児がん患者とその家族が直面している困難や悩みが少しでも軽減されるように活動しています。

### 講演

■ 本間陽子（北海道大学病院 看護師長）小児がん拠点病院/小児科・高度無菌病棟/小児がん相談員  
「ボランティアとともに子どもたちを支える活動」

■ 吉崎秀夫（札幌在宅クリニックそよ風 院長）

「みんなといっしょに」～小児ガン在宅ケアの経験～

1985 年東北大学医学部卒業、東北大学医学部付属病院・心療内科、会津若松市・竹田総合病院、東京・虎の門病院、札幌徳洲会病院・副院長を経て、2010 年 4 月より医療法人せせらぎ・理事長 札幌在宅クリニックそよ風・院長。

問い合わせ先：公益財団法人がんの子どもを守る会北海道支部 TEL 090-8906-5989（下田）

主催：公益財団法人がんの子どもを守る会北海道支部 後援：札幌市教育委員会 札幌市